

4 速読

「今昔物語集」

名前 年 組 番

字数 338 字
目安時間 5 分

正答数 2

検印

◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

—— 力持ちゆえに国司の反感を買った女がいた。国司から罰を受けるのを恐れた女の夫は、父母の勧めもあって女を離縁して実家に帰すことにした。——

妻、もとの郷の草津川といふ川の津に行きて衣を洗ふときに、商人、船に草を積み、その船に乗り

て過ぐとて、これを嘲りてすこぶる煩はす。女、しばらくもの言はず。船の主、なほいひ懸くるに、女

のいはく、「人を犯さんとせむ者はしや面いたく打たれなん」と。船主、これを聞きて船をとどめて女を

打つ。女、これを咎めずして、船の半らの方を打つ。船の方より水に入りぬ。船主、津のほとりの人を

雇ひて船のものを取り上げて、また船に乗る。そのとき女のいはく、「礼なきがゆゑに船を引き据ゑつ。

何のゆゑに諸々の人、我を凌じ蔑るぞ」と言ひて、女、船の荷乗せたるものを、また一町ばかりの程引

き上げて据ゑつ。そのときに、船の主、女に向かひてひざまづきていはく、「我、大きに犯せり。理なり。

しかれば女、許してけり。

語注

*しや面…「しや」は卑しめ、ののしる意を表す接頭語。
*一町…距離の単位。約一〇メートル。

問1 傍線部の現代語訳として最も適当なものを次から選べ。

- ア その顔が痛くなるくらい打ってしまふぞ。
- イ その顔が必ず痛くなるほど打たれるだろうか。
- ウ その顔がひどくなるまで打ちなされるだろうよ。
- エ その顔をきつとひどく打たれるに違いない。

問2 本文の内容に合致するものを、次から一つ選べ。

- ア 女は、商人の船がそばを通りかかったとき、商人をからかった。
- イ 女は、理由もなく商人にからかわれたので、怒って水の中に飛びこんだ。
- ウ 女は、力があるだけではなく、道理をわきまえた人物だった。
- エ 女は、商人が反省の色を見せたので、船を陸に引き上げてやった。

4 復習 「今昔物語集」

名前 年 組 番

正答数

12

検印

文法 Q 傍線部①～⑥について、本文横の□に、意味・活用形を埋め、文法の説明を完成させよ。

省略 Q 本文横の□に省略された語句を記せ。(本文中の語句で答えること。)

妻、もとの郷の草津川といふ川の津に行きて衣を洗ふときに、商人、船に草を積み、その船に乗り

て過ぐとて、これを嘲りてすこぶる煩はす。女、しばらくもの言はず。船の主、なほいひ懸くるに、女

目的語
を

助動詞
形

のいはく、「人を犯さんとせむ者はしや面いたく打たれなん」と。船主、これを聞きて船をとどめて女を

助動詞
形

打つ。女、これを咎めずして、船の半らの方を打つ。艫の方より水に入りぬ。船主、津のほとりの人を

主語
は

雇ひて船のものを取り上げて、また船に乗る。そのとき女のいはく、「礼なきがゆゑに船を引き据ゑつ。

助動詞
形

何のゆゑに諸々の人、我を凌じ蔑るぞ」と言ひて、女、船の荷乗せたるものを、また一町ばかりの程引

助動詞
形

き上げて据ゑつ。そのときに、船の主、女に向かひてひざまづきていはく、「我、大きに犯せり。理なり。」

助動詞
形

助動詞
形

しかれば女、許してけり。

単語 Q 波線部㉠～㉤の本文中での意味を答えよ。(活用する語は終止形の訳語でよい。)

㉠

㉡

㉢

㉣

☒ その他の覚えておきたい単語

咎む…①非難する。責める。②怪しむ。③問いたです。

半ら…半分。中ほど。

大きなり…①大きい。広大だ。

②程度がはなはだしい。ひどい。